

▼関西

関西民放クラブ

2024年度総会・懇親会開かる

高井 久雄(KTV)

関西民放クラブの総会・春の懇親会が、会員81名と来賓・招待者など11名が参加して、4月12日、ホテル阪神大阪で開催されました。総会は、まず23年度の活動報告に始まり、23年度・一般会計決算と会計監査報告、24年度・理事会役員人事(山本会長が渡辺新会長に交代)、24年度・活動方針、24年度・一般会計予算の各議案をそれぞれ提案、すべて承認され、総会を終了しました。



渡辺克信新会長(ABC)

休憩後、講演会が始まりました。講師は元朝日新聞記者のジャーナリスト・樋田毅さん、「非暴力で闘う意味、私の早稲田闘争から」という演題で行われ、特に現役時代に報道に携わった会員にとって非



常に興味深い内容となりました。引き続き懇親会は、来賓代表の和歌山放送・中村栄三社長から祝辞をいただいた後、日本民放クラブ・榎本理事長による乾杯の発声で始まりました。

会場には、写真同好会、陶芸同好会、川柳同好会、俳句同好会会員の方々の作品が並べられ、それぞれ作品を鑑賞しながら親交を深めていました。また「酒好き・旅好きな同好会」で昨年秋季篠山を訪れた際、会員が手びねりで作った丹波焼のぐい呑みが並べられ、作品談義も。今回も会員おすすめの日本酒が4本並べられ、大好評でした。懇親会の中では、新たなボランティア活動の紹介、理事を退任される方のインタビューが行われました。

最後は恒例の、関西民放クラブが誇る混声合唱団「コールまかーな」のステージ、渡辺新会長による中締め、全員で関西民放クラブの歌「いきいき夢を」の大合唱で、春の懇親会はお開きとなりました。

「吉本新喜劇」で大爆笑!!

高井 久雄(KTV)

75回を数える関西民放クラブ「落語(上方芸能)を楽しむ会」例会で、初めて、吉本新喜劇がメインの「なんばグランド花月・本公演」の鑑賞を企画したところ、いつもより多い25人も会員が集まった。

公演はまず、ぼる塾、そいどいつ、アキナと続く若手の漫才、コメントから始まる。続いて桂三度の落語、2丁拳銃の漫才を挟んで、この日だけの特別企画『ポケットミュージカルス』では島田珠代のパワフルな怪演で大いに笑わせた。その後は御大・西川きよし、実力派漫才のテンダラー、漫才界のレジェンド・オール阪神・巨人と続き、さすがの至芸で観客を沸かせて休憩となった。

休憩の後は、いよいよお待ちかね「吉本新喜劇」だ。この日の演目は、『寛平爺さんの老いては子に



従え、孫に助けられ!』。お馴染み間寛平が、珍しく新喜劇に出演して座長を務めるという特別興行である。脇を新喜劇の座長・吉田裕、山田花子らが固め、老人ホームを舞台としたドタバタを繰り広げる。寛平はアドリブを連発して他の出演者を困らせ、客席は爆笑のウズ。会員の皆さんも腹をかかえて大笑い。閉演は予定より30分押しという、出演者も大盛り上がるの公演だった。

意外にも関西人は、劇場に足を運んでまで「吉本新喜劇」を見ることは少ないので、この機会に見ておこう、という会員が多かったようだ。今後はこの同好会の定番メニューとして、「吉本新喜劇」鑑賞を設定しよう、と思った次第である。